

## 試聴会・訪問記掲載

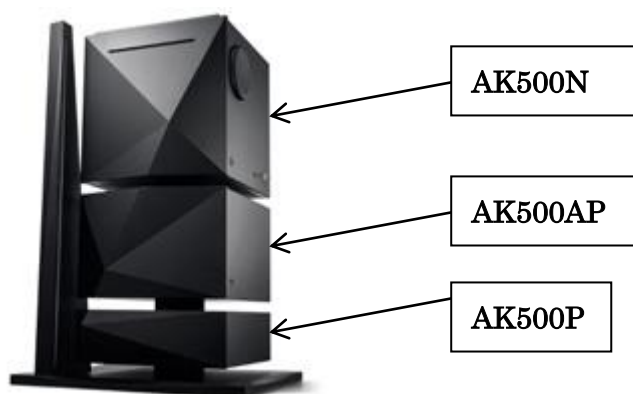
### 河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2016.8.6)

河口無線で、アユートが開催した Astell & Kern の新製品のアンプの試聴会に行ってきました。Astell & Kern は携帯プレイヤーの分野で最近注目されていますが、同社の製品を聴くのは初めてです。今回はネットワークプレイヤーも聴けるとあって参加しました。

8月6日 PM1:15~PM3:00

3F ハイファイディリティ試聴室

#### <使用機材>



Astell & Kern パワーアンプ AK500AP (写真は AK500AP+AK500N)

Astell & Kern パワーサプライ AK500P



Astell & Kern ネットワークオーディオプレイヤーAK500N (1TB)



B&W スピーカーシステム 802D3 ¥3,672,000 (ペア)



当日のセッティング

#### <試聴の経過>

Astell & Kern とその製品の短い紹介があつてから、上記の Astell & Kern の製品のラインアップ構成で、いきなりヒラリー・ハーンのバッハのV協奏曲の192KHz24bitのハイレゾ音源の再生から始まりました。そしてアナログマスターからの96KHz24bitのジャズの音源、ホテルカリフォルニアの192KHz24bit音源と続き、ホテルカリフォルニアのCDから44.1KHz16bitリッピング音源が比較のために再生され、さらにアランフェス協奏曲の96KHz24bit音源も続きました。クラシックは弦の倍音も伸びていますし、ジャズも切れ味の鋭い音が心地よく再生されました。一番驚いたことはCDからのリッピング音源がハイレゾに負けないパフォーマンスを示したことです。

AK500Nはネットワークプレイヤーと称していますが、SSDの1TBのサーバーからネットワークトランスポート、そしてDACプリまでの一体型で、しかもCDのリッピング用スロットや通常はタブレット等で行うコントローラーパネルも付属してい

ます。無線 LAN 機能がありますので、別のコントローラーも使えますし、別のネットワークプレイヤーに繋がれば、NAS としても認識されますし、ボリュームを回避して DAC として別のアンプに入力することもできるという融通の利く使い方が可能です。音の傾向は、SSD のサーバーとアンドロイド系のプログラミングのネットワークプレイヤー機能で決まっているものと思われます。なお、電源コードを抜けば、連続 7 時間の電池駆動もできるとのことです。

ここで AK500N の DAC までの機能を使用し、Lux のプリ C-900u とパワーアンプ M900u に繋ぎかえて AK500N のネットワークプレイヤーとしての音を聴くことになりました。先のヒラリー・ハーンを再生すると、パワーアンプの AK500AP とパワーサプライ AK500P の組みあわせに比べて、一転して Lux トーンになり、AK500AP のシャープで切れ味の良い音から幾分ソフトな音に変わりました。この組み合わせでノラ・ジョーンズのハイレゾ音源を聴いた後、アナログマスターから作成された CD のリップングで、ジャズとカンターテドミノを聴きましたが、先の例と同様 CD からのリップング音源とは思えないほどの音がしていました。

さらに AK500N から携帯プレイヤーの AK-380 に替えて、その光デジタルアウトを Lux の CD プレイヤー D08u の DAC 入力部に入れて聴くデモが行われました。Jazz の 192KHz24bit 音源、Jazz の CD からのリップング音源を聴きましたが、携帯プレイヤーをトランスポートとして使ってもかなりの音質であることが分かりました。最後に再び AK500N に戻し、DSD 音源を聴きましたが、やはり DSD の良さが出ていました。

AK500N はオールインワンのネットワークプレイヤーとしても使えますし、機能を分離しても使えるという融通性と SSD から再生する静かさや音の透明度が魅力のポイントです。一方、AK500P はデザイン性で AK500N とペアーを組み、切れ味の良い音をきかせてくれました。